

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(南)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一期一会の理念をモットーに、ご利用者様には、尊敬と尊厳の気持ちでいつも変らぬ笑顔とあたたかいまなざしで、安心・安全にお過ごし頂きたいと、職員一同一丸となって頑張っています。 又、地元の新鮮な食材で、ご利用者様の好物を取り入れた献立を考え、心を込めた手料理を毎日提供しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海や山に恵まれた自然豊かな不知火の地で、入居者・家族・職員をはじめ、ホームに関わる全ての方々と“一期一会”を大切に、家庭的な雰囲気・関わり・毎日の食事提供等職員は業務連携を大切に取り組んでいる。両ユニットは異なる介護度にあるが、できるだけ入居者の思いや要望に応えられるようチームワークに努め、買い物外出やソファ・テーブルに同席しての寄り添い・見守り・喫煙支援など個別支援により満足に繋げている。又、法人代表者も食事支援風景をはじめ、入居者の日常生活に関わり、気づきや提案を発信するなど代表者としての責務を行動で表している。職員からも今後のホームの姿や目標を念頭に業務にあたっている事が聞き取りなどから確認することができた。今後も“一期一会”の精神が地域の中で活かされていく事に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会の理念をモットーに、全職員が、ご利用者を平等に又孤立する事なく生活出来る様にしていきたい。	開設時から変わらぬ『一期一会』の理念を基に、利用者尊重の介護姿勢で業務にあたる事を職員間で確認している。又、職員は個々に月目標を定め日々のケアにあたっているが、実践状況を振り返り次回に活かすには至っていないと管理者は語っている。	地域密着型事業所の介護職員の一人として、理念の共有と併せ実践状況を自己評価する機会や身近な介護月目標を掲げ、ケアに活かされる事を期待したい。管理者は各ユニットのボードを活用し、理念や目標の意識付けを図りたいとしている。実現が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様は出来る限り、地域の人と接して頂ける様福祉会の行事、地区の行事に参加している。又、職員は地区の美化に努め月2回の清掃を行っている。	季節や天候に応じてできるだけ入居者と近隣を散歩し交流を深める機会を持っている。又、限られた方であるが毎月十五日に開催される福祉会への参加や、地域の清掃活動に職員が参加し、挨拶を交わす中で地域のイベント等の情報を収集している。又、ホームに設置されたAEDについても、玄関へのステッカーの掲示や推進会議を通し啓発を行うなど、ホームに出来る地域貢献を模索しながら運営にあたっている。	今後は認知症について地域の方々へ話す機会を得、認知症を多くの方々に理解してもらいたいと話している。これからの事業所の取り組みにより更に地域の中のホームとして根差していく事に期待が持たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開放的なホームでありのままの姿を地域の皆様に見て接して頂いている。これからは、ホームから地域の人に認知症のご理解を深めて頂ける様集まりの日を利用し、私達の知識をお話できればと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催している。多数の推進委員の方が、ご出席頂きテーマに基づき色々なご意見、アイデアを出して頂きホームの運営、サービス向上に活かしている。	地域代表者や家族など多様なメンバー構成により開催され地域活動やイベントの情報を収集する機会にもなっている。会議の内容は家族会の中で報告を行い共有や会議への理解に繋げている。	今年度会議の内容が、災害対策中心になり過ぎたようである。重要な課題であるがメンバーの専門性を活かしながらホーム運営に繋げる会議となるよう、内容の検討が必要と思われる。又、会議の間隔もおおむね二ヶ月毎とした期日設定が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は、常に行政に出向き、相談やアドバイスを頂き、よりよいケアサービス、よりよい運営が出来る様に努力している。	行政担当者の推進会議への参加をはじめ、日頃よりホーム運営にアドバイや指導を受けながら連携を図っている。又、代表者も不明な点は役所に出向きホームの現況を伝えながら相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事が身体拘束になるか、具体的な事例を上げ身体拘束は、絶対しないよう介護方法を話し合いケアにつなげている。玄関を開放し、チャームを外し、見守り重視に切り替えケアを行っている。	ユニット間合同の身体拘束に関する研修会の開催や、日常の業務の中でスピーチロックを含め事例をあげた勉強会を開催している。又、職員のチームワークや見守りによるケアを実践し、日中は玄関の施錠もされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関したセミナーや、他のセミナーに積極的に参加し、勉強して来た事を他の職員にも伝達し、決して虐待・言葉づかいには注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーに参加し勉強して来た事を毎月の勉強会の時、発表し資料等は、配布してから共に理解していけるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約はもとより改定等も、ご家族様の納得いかれるまで、十分な説明を行っている。今迄すべてご理解ご納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様には、いつどんな時でも、ご遠慮なくご意見・ご要望・苦情は言ってお下さいとお願いしている。家族会などで出たご要望などには、早急に対応し、経過や内容の説明を行うようにしている。	家族会や来訪時に意見や要望などを確認する他、本人・家族が気軽にホームや職員に言える関係を心がけ、家族へもその事を伝えている。又、公的機関の相談窓口についても説明を行っている。入居者から出た要望については、家族の協力も得ながら帰省や日用品の購入などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や気持ちを気兼ねなく言える職場作りに努めている。	会議以外の日常のケアの中でも、職員の意見や提案を確認しホーム運営に繋げている。今年度酸素チェック器など必要な物品の購入が行なわれ、入居者の健康管理に役立てられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を十分理解して頂き、考慮してもらっている。皆楽しくやりがいを持って業務を行っている。又、勤務希望シフトなども考慮してある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人が希望や推薦によりセミナー等参加させてもらっており、資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や勉強会に参加し、他の事業所の人とコミュニケーションを図り、お互いの問題点は、自分の事と考え一緒に悩みアドバイスしたり受けたりして、サービスの質向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に笑顔と優しい気持ちで寄り添い、ご本人様の気持ちになって、傾聴し安心と信頼関係を築いていく様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が、何でも当事業所にご要望なり、又、お困りな事、不安な事等を遠慮なく言って頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議等に、ご家族様もご参加頂きご本人様とご家族様のお話を良く聞き、出来る限りのサービス支援をし満足して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「私もまだ人の役にたつ」と云う思いをして頂けるよう、ご本人が出来る事はお願いし「ありがとう。助かりました」と感謝の言葉をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者との日々の会話の中から今迄の人生の歩みを書き取り、自分史を作りご家族様との思い出作り、ご家族様との思い出を形に残すお手伝いをしたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や理容室には、出来る限りお連れしたり、時にはご家族様同行をお願いしたり、又、昔のご友人のお宅をご訪問したりしている。	通い慣れた理・美容室の利用や調理・茶碗洗いなどのこれまで行ってきた家事が継続して行えるよう見守りに努めながら支援している。又、帰省や友人宅を訪問するなど、入居者との関係が途切れないようにしている。	入居者にとって馴染みの場所や関係に加え、特技や習慣などアセスメントや日常の関わりの中で、職員の気付きや発見などにより更に入居者個々にとっての馴染みの支援が実施される事に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の興味を把握し、歌・ゲーム・習字などのレクリエーションで楽しい雰囲気をつくり孤立した人がいないよう全員に声掛けして毎日をお過ごし頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、職員は気に掛け、外でばったりお逢いしたら、しばらくお話ししたり、ホームにお出かけ下さったご家族様もあるように、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントする時、生活への意向をも聞き取り、サービス計画へ反映している。	職員やケアマネジャーが連携し、入居者のアセスメント作成をはじめ、職員は日常の関わりの中で思いや要望を確認している。又、重度化が否めないユニットにおいては特に、家族からの情報や本人の思いをくみ取りながらプランに繋げられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集時、本人または家族と面談し、生活歴や生活環境を聞き取りサービス内容に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日常生活の様子、心身状態の変化などの観察をしケアを行いながら把握し記録を通し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、ご本人・ご家族・スタッフ出席のもと、担当者会議を開きそれぞれの意見を求め、それを反映している。	関わる全ての意見や気づきが反映され、現状に即したプランとなるよう担当者会議は、家族に合わせた時間設定を心がけ実施している。計画作成担当者は本人・家族の意向にそうように家族へのプラン説明では、専門用語は使わず、かたくない雰囲気の中で質問を受けたり、丁寧な説明を心がけた承を得ている。	職員の今後の資格取得や更なるケアに対する意識の向上に繋げるために、今後はプランに対する勉強会の開催に期待が持たれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに基づき24時間生活シート、個人記録は、日常生活の変化状況等を記録し、職員同志情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせ、訪問リハビリ・鍼灸・歯科通院・往診等のサービスを利用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃、花植え、福祉活動に職員、ご利用者共に参加し、地域住民と交流したり、馴染みの方との交流が継続出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回かかりつけ医の往診を受け、本人及びご家族が希望された時は、他の医療機関への定期的な受診が出る様支援している。	入居時に本人、家族へかかりつけ医について説明をしている。在宅時からのかかりつけ医を継続する場合には家族の協力を得ながら、ホームでも受診に同行したり送迎を支援するなどの対応が図られている。協力医へ移行した入居者へは二週間に一度の往診を支援し、担当医師に直接入居者の状態を相談している。共に変化があれば医療機関と連携し早期受診が出来るような体制を整えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々観察、気付きを大切にし、異常の早期発見に努め、すべて看護職へ報告し24時間適切な、早期対応が出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な介護情報を提供し安心して治療に専念でき早期退院につなげ病院関係者より情報を得、退院後も安心して生活が送れる様支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期に向けては、昨年同様、ホームで出来る事、出来ない事の説明をし、本人、家族の意向を尊重し可能な限りの支援はホーム全体で取り組んでいる。今、この事についてのマニュアルを作成中である。	開所以来数年が経過し、ユニットによっては入居者の重度化も進んでおり、必要時に医師を交え話し合いの場を持っている。家族へは入居者の現状と今後予測される状態について説明し、ホームとして支援出来ること、出来ないことを口頭で伝えている。ホームでの看取りを希望する家族も居られることから職員体制を含めた今後の課題となっている。	現在、ホームの方針を文章化した基本ラインを製作中であり、今後の指針として完成が待たれる。看取り支援については、家族や担当医師との連携が不可欠であり、重要な問題であることから慎重な対応が必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、その都度応急手当、初期対応を学ばせ指導を行っている。看護職・ホームドクターと連携をとり早期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を中心とした、災害時の避難を計画検討し終え、今後地域の方と一緒に訓練を重ね、全職員と地域との協力体制を構築する。	本年度、昼、夜を想定した火災訓練を実施し、実際に毛布を使った非難、誘導の難しさを体験している。職員が守るべき火災への心構えを多目的ホールに掲示し、消防署によるAEDの実施指導、日頃の安全点検や備蓄を用意し有事に備えている。地域消防団との協議会においてその内容を推進会議資料として作成し、参加者に提示しながら広く意見を求めている。	資料は火災のみならず、地震や津波、風水害についても詳細に記録されており、避難場所や経路、避難時の入居者への支援方法を個別にまとめており、マニュアルとして職員会議などで取り上げ共有することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライバシーを損ねず、守秘義務を厳守し、尊敬と尊厳を持って接するよう心掛けている。	職員は入居者への尊敬の念を持って関わっている。話の内容によっては居室で入居者からゆっくり話を聞き、トイレ介助や居室での排泄対応や、更衣時には必ずドアを閉めるよう統一している。呼称はユニットごとに名字にさん付けで呼んだり、下の名前で呼ぶなど入居者に馴染みの言い方で対応し、分かりやすい表現を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・衣類の選択など、その時々自己決定の支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや意向を一番に考え、日々の暮らしを考え、ご本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日朝から、身だしなみのご支援をし、毎月1回出張散髪をお願いしているので、必要な人には利用して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が大きな楽しみのひとつであるので、日々の会話の中で好物を聞き、献立に取り入れたり、お誕生日には、ご本人の食べたいものをメニューにしお祝いを行っている。 マイはし・コップを使用されているご利用者もいる。	食材の買出しは担当職員が行い、旬の野菜や果物で季節感を出し、入居者の好みを反映した献立を提供している。安全面を考慮して冬場には刺身なども食卓に上り、誕生日には寿司の出前も振舞われている。職員も入居者の間に入り同じ食事を摂り、量や味付けを確認しながら記録に残している。	野菜の下ごしらえや食器洗いなど入居者が出来ることで食に関わっているユニットと、全工程を職員が行っているユニットがあるが、入居者に尋ねながら残存機能を活かし、些細な事でも日々の食事に携わる場面作りを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取を把握し、その人に合った対応を支援している。又熱中症対策として時間を見ては、早めの水分補給にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨きの支援、就寝時には合わせて入歯ケアの支援を行っている。 ご本人の希望、歯科受診・往診の支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、なるべく失敗しない様にトイレへの声掛けを支援している。又、夜間歩行困難なご利用者様には、ポータブルトイレを設置し使用して頂き、プライバシーにも配慮している。	入居者の排泄間隔を把握し、時間や様子を見ながら声かけや誘導を行い日中はトイレでの排泄を基本として支援している。夜間にポータブルトイレを使用する場合には洗浄や日光消毒により衛生的に管理し、居室に臭いを残さないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日行い記録している。水分補給を心掛け、食物繊維の多い食事・ヨーグルトの飲用をメニューに入れたりしている。どうしても便秘される人には、服薬等の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様のペースに合わせ、気持ちよく入って頂ける様に心がけている。夏はほぼ毎日、冬は2日に1回をめどに又、脱衣室の温度管理にも気を配り楽しい入浴であるよう菖蒲湯・ゆず風呂に入っている。	入居者の状態を見ながら冬場は一日おきの入浴を支援している。夏場は支援の回数を増やし、発汗時や汚染時にはその都度対応している。重度化に伴い、入浴支援が難しくなりつつあるが、身体の清潔保持に努め毎朝の入居者の身支度には職員が十分配慮し、尊厳を含めた対応を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせ自由に休まれたり、夜間は十分に入眠して頂ける様周囲の環境にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員によって管理され、指示通りの服用をしている。常にかかりつけ医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力が低下しない様、家事手伝い・ラジオ体操・館内散歩を毎日促している。お天気の良い日は、ドライブしたり、地区の行事に参加して気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体に負担がかからない様注意しながら、戸外への支援を行っている。今年は家族協力のもと、花見に全員参加し、又、ショッピングセンターに行きご自分で好きな物を購入する喜びを味わっていただいている。	桜見学には手作り弁当を持って全員で参加し、温泉センターへの一日旅行や石橋見学、夏の地蔵祭りなどへ出かけている。地域のショッピングセンターでの買い物の支援では入居者が好きな品を購入し、お金の支払いをされる場面を作り、買い物の楽しさを共感している。家族による法事への帰宅やドライブなどの協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのショッピングセンターにお連れし、店内を見て楽しんだり、自分のお金を持って、自分の買いたい物を買える喜びを味わって頂く支援をしている。きちんと小遣い帖につけてご家族様に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて代筆したり、声の便りをしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、気持ちよく生活して頂き安全・安心な空間づくりを目指している。又室内には、花を飾り思い出の写真を展示している。	両ユニットに設けられた多目的ホールには入居者の書や誕生会の写真などが展示されている。廊下や共有スペースは掃除が行き届き清潔な空間作りを心がけている。大型の布団や季節外の品々を収納する部屋も確保しており、各居室が十分に使えるよう配慮している。広い中庭は日光浴や行事などの際に活用されている。	本年度は、玄関にその日の出勤職員の名前を掲示し、来訪者に紹介するなど新たな取り組みをしているが、同時に顔写真を載せることで家族にはより分かりやすくなり、職員との距離が更に近くなるものと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の隣に、ソファを置き好きな時間テレビを見たり、会話が出来る空間作りをしている。そこには、職員がいつもいてご利用者様が安心して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご利用者様の使い慣れた物や好きな物を置き、自由にゆっくりくつろげる空間であるように支援している。	入居者が使い慣れた品々が持ち込まれ、室温や換気に配慮し、季節ごとの衣類の入れ替えには家族の協力を得て、居心地の良い住空間を作っている。職員は入居者へ居室に設置された洗面台で口腔ケアを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで、安全で安心して生活が送れる工夫と個性に合わせ、生き生きとした生活が、送れる様常に考えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(東)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との信頼関係を、少しでも構築出来る様努力しているが、なかなか出来にくくなっている為家族との対話に努め、意向等を十分に聞く様にしている。
又、意向・要望に対しては、出来る点・出来ない点をはっきり伝え、誤解が生じない様に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時間ある度に、職員に対し、左記の内容の説明及び、実践の中から知ってもらう様に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一の福祉会への参加及び、運営推進会議を通じて交流を図り、地域の動きと連動する様努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に於いて、地域の人に説明し、理解をして頂く、又、地域行事に参加時紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災関連は、かなり実績を上げつつあるも他の介護等に関しては、まだまだ不足を補う方向で努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	この事項に関しても、(3)と同様進行中である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での話し合いと、個々での注意し、身体拘束及び虐待防止等の研修会に参加し、ケアの向上を図る。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政の開催する、研修会など積極的に参加し、勉強会など職員と共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の勉強会にて、後見制度の理解を含め、多方面で行っている。又、家族との話し合いも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人・家族・管理者・ケアマネにて意見交換会を行い納得上、締結する。又、足りない部分に関しては、後日意見を頂き、変更できる部分は変更する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での発表及び、福祉会等に参加時に、世間話し等で行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、出来る限り、職員の要望意見を伝える様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事あるごと、代表者は、管理者に職員の状態を聞き取り、状態の把握をし、給与及びやりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月の勉強会や、各利用者の担当者会等にて、介護のあり方や、意見の集約又、勉強会等に積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では、管理者は他の管理者等の交流はあるものの、職員は、勉強会位で、今後は、相互訪問等を出来る環境作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との対話及び家族との話し合いを行い、良くコミュニケーションを取り、要望等を聞き対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、何度も話し合いを重ね、本人が本人らしい生活をする為には、との事を基本に、不安を取り除きながら関係作りをする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、まず第一に希望させる事をいくつかあげてもらい、出来る限りサービス提供共、出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身になった介護のあり方を、主に一緒に生活するという気持ちで対応、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、及び家族会、サービス担当者会を通じて家族との関係を築き、本人を支える最も大切なパートナーとしての関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ、途切れない様、努力はしているものの、ご利用者の体調により、途切れがちになっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の状態を把握し、孤立しない様又、気の合う利用者同志が楽しく生活できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者それぞれのサービス担当者会議にて家族からの意向、本人からの意向をケアに反映し、面会に来られた時意見等あった場合聞き取り反映している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時、ご本人に希望、意向を聞き、出来る限り反映する様努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族より生活歴などの必要事項を聴取し、可能な限りそれらを生活の中に反映させ、在宅生活との隔たりを少なくホームで安心した生活が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個別に総合的な観察を行い、記録情報の共有により現状の把握をすると共に現状に即した支援が出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する場合、担当の職員に、モニタリングを依頼後、家族との話し合い(担当者会議)を行い、作成意見等は、その場ですべて出さず様実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合的に観察の基、日々の様子や介護計画におけるケア状況、結果、気づき又、利用者・家族の意見や思いなど個別に、記録、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、主に病院や歯科受診の支援を行っているが、個々のニーズに対応したサービス支援体制は整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では、花壇作りとか、地域清掃等の行事に参加して、地域の人々と交流して自分の存在を再確認して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近では、家族にも理解できつつあり、問題なく進みつつある。 最近、家族から先生へ要望等が出来る様に、パイプを作り上げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設では、ケアマネ＝看護職なので、ケアに関しても、病院との関係も常にコミュニケーションを取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でもホーム同様の必要なケアを受ける事で、安心した入院生活及び治療に専念出来る様介護情報を提供している。 又、病院関係者との情報交換により、退院後も安定した生活が送れる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各ご家族と、話し合いが進みどの様な対応するかの話しは終わり、取組みに入っている状態である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、かかりつけ医と協議又家族と連絡を取りつつ初期対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は、運営推進会議等で、協議しスムーズに避難出来る様、体制作りは終わり、今後は、合同での訓練に取り組む。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り努力を行っている。時として面会時に、ご家族等に尋ねられる事も多々あるので、気をつける部分ではある事を認識し直す。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好物を聞いたり、日常生活の中で希望を聞き、出来るだけ応じる様に努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに基づき、その人の生活に合ったケアを中心にして支援を行う、又、その人の意向を聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、出来るだけその人に合った、身だしなみを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各誕生会、年間の行事等でのメニュー作りの際、好物を聞き、提供する様努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	分量や栄養に関しては、かかりつけ医と相談しながら進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては、食後毎一人一人、職員が対応して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者各々が、自分で持っている自己の自立を促し、排泄をして頂く様努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、かかりつけ医と相談し、薬などでコントロール又、食べ物等での予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、一日おきの入浴を進めている中で、希望する人に対しては、関係なく入って頂き、無理強いない様努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態に応じて、取れる様に、日々生活の中でストレスがない様努力と担当医の指示の基、眼剤等の処方している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、そのつど担当医に相談の基支援し、変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々生活の中で、その人の楽しみ、好みを理解し、気分転換等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、以前の様には外出等も出来なくなってきたものの、出来るだけ、気候の良い日を選んで外出する様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人にお金の状況は説明を行い、いつでも使える様な支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が、希望されればいつでも連絡が出来る様、電話にしても、手紙にしても、行える様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも、どこへでもの(施設内)行ける様、自由にして頂ける様努力はしている。特に、嫌なものに対しては、無理強いはいしない様している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等に、ソファを置きテレビ観賞・新聞雑誌等を見て頂きながら、日常生活に近い状態を維持している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室は、ひとめで解る様に、個々の写真と明るい雰囲気作りに努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合った環境作りをし、出来るだけ、生活環境には、障害物がない様な空間作り等を行っている。		